

第26回 交野市・交野市星友クラブ俳句大会 次第

主 催： 交野市・交野市星友クラブ

日 時： 令和5年10月19日(木)

開 会： 14時30分 (開場:14時)

場 所： 交野市立保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)

4階 多目的ホール

選者： 堀江 信彦 先生

司会： 市星連スポーツ文化部 部長 山口 利子

1. 開 会

2. あいさつ

市長 山本 景

会長 青山 雅宏

3. 選者紹介

スポーツ文化部長 山口 利子

4. 全投句読み上げ

堀江 信彦 先生

5. 入選作発表

堀江 信彦 先生

市長賞、会長賞、選者賞、特選、入選

6. 表 彰

市長 山本 景 会長 青山 雅宏

7. 講 評

堀江 信彦 先生

8. 閉会

第二十六回 交野市・交野市星友クラブ俳句大会

市民から投句のあつた作品

一 木の芽のせととのいきました懐石風
き め かいせきふう みずはら ひさこ
水原 久子

二 背のびして孫に着せたる浴衣かな
せ まこき ゆかた みずはら ひさこ
水原 久子

三 朧月師の病知り絵筆置く
おぼろづきし やまいし えふでお やまぎわ さよこ
山際 佐代子

四 陽を浴びるゴーヤカーテン透けるあお
ひ あ す やまぎわ さよこ
山際 佐代子

五 雀蜂徳利のやう軒の下
すずめばちとつくり のき した ひろえ きよこ
廣江 清子

六 念仏寺微笑み寄せり梅雨癒し
ねんぶつじほほえ よ つゆいや ひろえ きよこ
廣江 清子

七 空地にも鉄砲百合の香り満つ
せこ まさじ
世古 正二

八 吊橋に甲高き声野分あと
せこ まさじ
世古 正二

九 彦星の櫂のしづくか宵の雨
ひこほし かい よい あめ さかもと しげよ
坂本 茂代

十 片日影シニアーカーで友たずね
かたひかげ さかもと しげよ
坂本 茂代

十一 わが春と咲き誇りたる桜かな
はる さ ほこ さくら にしむら ひろし
西村 裕

十二 ゆく春も時は旅人また帰り来ん
はる とき たびびと かえ こ にしむら ひろし
西村 裕

十三 手花火や親子の笑顔照らしをり
てはなび おやこ えがおて まつもと けいこ
松本 恵子

十四 廻り道手土産ぶらり烏瓜
まわ みちてみやげ からすうり まつもと けいこ
松本 恵子

十五 梅雨晴れに雑草どもと根くらべ
つゆば さつそう こん ませ みつお
間瀬 三生

十六 人の世の儂さよりも蝉あわれ

ひと よ はかな せみ
ませ みつお
間瀬 三生

十七 路上の蟻梅雨空眺め思案げに

ろじよう ありつゆぞらなが しあん
やまなか ひとよし
山中 仁義

十八 ベンチから次のベンチへ夏散歩

つぎ なつさんぽ
やまなか ひとよし
山中 仁義

十九 花筏動かぬ上に枝の影

やだ ちかこ
矢田 千加子

二十 無住寺の手水に深き春の雲

ちようず
やだ ちかこ
矢田 千加子

二十一 夜泣石の虚実を語る夕薄暑

よなきいし きよじつ かた ゆうはくしよ
やまだ ひろみ
山田 洋美

二十二 天翔る千の折鶴ひろしま忌

あまかけ せん おりづる き
やまだ ひろみ
山田 洋美

二十三 城跡の今は諸草半夏生

しろあと いま もろくさはんげしろう
みやけ きさぶろう
三宅 稀三郎

二十四 陸屋根の雨垂れ拍子合歓の花

りくやね あまだ びようしねむ はな
みやけ きさぶろう
三宅 稀三郎

二十五 初めての白杖半歩春隣

はじめ はくじようはんぽはるとなり
かつもと ゆきこ
勝本 幸子

二十六 たかが目やされど目と問う秋夕焼

め め と あきゆやけ
かつもと ゆきこ
勝本 幸子

二十七 蝉しぐれ移動図書館待つ親子

せみ いどうとしよかんま おやこ
まつもと たかはる
松本 孝治

二十八 数独の解けて喉ごす心太

すうどくと のど ところてん
まつもと たかはる
松本 孝治

二十九 もう少し生きる積りや更衣

すこい つも ころもがえ
ふじわら はるみ
藤原 晴美

三十 あたたかや抱かるる嬰の大欠伸

だ やや おおあくび
ふじわら はるみ
藤原 晴美

三十一 蝉時雨帰省の孫の寝息聞く

せみ
早川 周三

三十二 角砂糖二つ並んで昭和の日

早川 周三

三十三 蓮鉢は上を下への蝌蚪の国

はずばち うえした かと くに

まつざき さちこ
松崎 幸子

三十四 鶯に導かれ行く山路かな

うぐいす みちび ゆ やまじ

まつざき さちこ
松崎 幸子

三十五 老木も人目と和ます枝垂れ藤

ろうぼくひとめなこ しだ ふじ

おか まさお
岡 勝夫

三十六 朝日受け光る雫の七変化

あさひう ひか しずく しちへんげ

おか まさお
岡 勝夫

三十七 ふらここの風切る童得意顔

かぜき わらべとくいがお

おか みつこ
岡 美津子

三十八 コーヒーのホット一杯今朝の秋

ばいけさ あき

おか みつこ
岡 美津子

三十九 片栗の花は咲いたか山路急ぐ

かたくり はな さ やまじ せ

いしかわ としよ
石川 淑代

四十 乗り換えの駅に群れ飛ぶ赤蜻蛉

の か えき む と あかとんぼ

いしかわ としよ
石川 淑代

四十一 赤信号待てももどかし炎天下

あかしんごうま えんてんか

ちかだ ひろこ
近田 弘子

四十二 とこしえに戦なき世を祈る夏

いくさ よ いの なつ

ちかだ ひろこ
近田 弘子

四十三 夢使ひ果して蟬の空となる

すぎやま かずみ
杉山 和美

四十四 残暑たる身を背負生く七十才

すぎやま かずみ
杉山 和美

四十五 ハッピーやね 背中に汗のハートかな

むらお きよこ
村尾 紀代子

四十六 変りない？息子の声に出る元気

むらお きよこ
村尾 紀代子

四十七 庭いじり子供のころの水遊び

うえむら まさこ
上村 征子

四十八 青空に樂し思ひ出遠花火

うえむら まさこ
上村 征子

四十九 昼までに終える掃除や百日紅

もりた ちかこ
森田 力子

五十 雑草の中に一輪玉すだれ

もりた ちかこ
森田 力子

五十一 草わけて文摺り草の背伸びかな

きしい とみこ
岸井 富子

五十二 首伝ふ球児の汗や雲走る

きしい とみこ
岸井 富子

五十三 置き忘れ三個の茗荷からからに

うらの あつこ
浦野 篤子

五十四 バターたつぷりとパン背徳の盛夏よ

うらの あつこ
浦野 篤子

五十五 天瓜粉若かかりし日の母想ふ

かたやま
片山 すすむ

五十六 にんまりす夏の魚をレジ籠に

かたやま
片山 すすむ

五十七 古都の夜を彩る炎大文字

ばんどう えいこ
坂東 英子

五十八 この残暑負けずに闘ふ選手達

ばんどう えいこ
坂東 英子

五十九 あれこれと思ふばかりや暑き日々

しもの さだこ
下野 貞子

六十 すこやかに卒寿迎えん夏帽子

しもの さだこ
下野 貞子

六十一 手と足がちぐはぐな盆おどり

しば ふみ
芝 文

六十二 どの店も売り切れ続出夏まつり

しば ふみ
芝 文